

## 第2回第5期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会

5月15日(木)に、第5期瀬谷区地域福祉保健計画(令和8~12年度)の素案についての話し合いを行うため、第2回策定懇談会を開催しました。地域の各団体、医療機関、行政等の策定委員(17名)で意見交換を行いましたので、内容の一部を紹介します。これらのご意見を踏まえて、第5期計画(素案)を修正していきます。

### 第5期瀬谷区地域福祉保健計画(素案)の基本目標を実現するための「6つの取組」について



基本目標Ⅰ：“おたがいさま”で支え合うまち  
Ⅱ：健康でいきいきと暮らせるまち  
Ⅲ：誰もが活躍できるまち

#### 取組1：身近な見守り・支え合い・助け合いのつながりづくり

- 「ゆるやかなつながり」は、第4期計画でも使われており、様々なところで広まっているので伝わると思う。
- グループホームで生活している人も、外国にルーツのある人も、みんな、もしもの時には、地域の中で顔がつながっていることが一番大事である。

#### 取組2：一人ひとりに応じた健康づくり

- フレイル予防は横浜市全体でも一生懸命に取り組んでいるので、瀬谷区の計画にも入れてはどうか。
- 子どもの健やかな成長には、健診や予防接種が大事なので、載せるべきである。

#### 取組3：健やかに子どもが育つ風土づくり

- 20年続けている瀬谷区の「子育て応援ネット」は、瀬谷区として誇れる事業であるため、コラム等で載せるべきである。
- 学校に通えない子に、どのように過ごしてもらうか、すぐに結論が出せなくても、地域福祉保健計画に入れて検討していくべきである。
- 学習支援には多くのボランティアの方に来てほしい。また、その学習支援の中で、子どもたちが自己有用感を高め、可能性を広げていってほしい。
- SNS等で、子どもたちが犯罪に巻き込まれないように、きちんと危険なことも説明し安全に守つていかないといけない。また、保護者を支える仕組みづくりも必要である。

## 取組4:様々な人ととの交流のつながりづくり

- この計画(素案)のやさしい日本語版も作成するので、外国にルーツのある人を含めた全ての人に分かりやすい計画になると良い。
- 障害者、認知症、外国人等とひとくくりにせず、個々を理解する視点を忘れないでほしい。
- 若い世代(次の世代)にスポットが当たりにくい。若い世代が瀬谷区の魅力を知って、「ここに住んで良かった」と思える仕掛けが必要である。
- インクルーシブスポーツを瀬谷区全体で行っていき、つながりづくりを進めていきたい。

## 取組5:それぞれの力を生かすネットワークづくり

- 同じ分野のネットワークだけではなく、他分野でのネットワークづくりが記載されていると良い。ダブルケア等、異なる分野の課題をネットワークを組んで解決できると良い。
- こどもや障害者も力を発揮できる。困っていることのニーズだけではなく、「こんなことでもできますよ」ということがあっても良いのではないか。

## 取組6:必要な情報や支援が届く仕組みづくり

- 福祉サービスとつながっていない人にも、希望に応じて、情報が届く仕組みがあると良い(災害時のことだけでも良い)。
- 連合やシニアクラブでホームページがある。二次元コードも活用している。多くの方への周知という点では、この計画も、スマホでも見やすい工夫が必要である。

## 【素案】全体を通して

- 「瀬谷区で生活している『すべての人』を対象とします。」という表現や、「区民」「関係機関・活動団体・各種施設等」が計画に明記され、みんなで取り組んでいくことを改めて確認できた。
- 地域福祉保健計画を知らない人が見ても分かりやすいように、マンガやイラストの具体例を入れた方が良い。
- もっと、瀬谷区地域福祉保健計画を知ってもらえるよう、様々な場面で伝えていく努力をすべきである。また、この計画の途中経過も様々な会議等で伝えていきたい。
- 地域や団体の活動は年度に区切られずに取り組んでいるものもあるので、5年間ごとに計画を立て、毎年振り返りをすることは、大変である。

## 学識経験者からのコメント

地域福祉保健計画は、他分野と関係しており、地域福祉保健は全てのテーマに関わってくる。また、地域福祉保健計画は行政計画だが、他方で地域福祉保健の性質からすると、区民、関係団体、行政等の協働によって実践される計画もある。この素案で改めて、瀬谷区全体で取り組みましょう！という気持ちが伝わるか大事である。



- 瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画)
- 過去の懇談会の報告書 (バックナンバー)